

2022年12月10日

元DV被害者に話を聞く
～支援者に求められる支援とは～



「ガスライティング」初めて聞いた言葉。今から80年ほど前の「ガス燈」というアメリカ映画に因んだ言葉とのこと。早速アマゾンプライムで「ガス燈」を観た。

何度も何度も自分の考えを否定され続けるうちに「私はおかしいのではないかと」心理的に追い詰められていく。次第に自信喪失、自己肯定感を奪われ、洗脳され相手に依存していく。まさにDV加害者と被害者の関係だ。

教えてくださったのは山中やす子さん。ご自身も夫のDVから逃れ、現在は相談事業に携わられている。山中さんのお話は自叙伝しながら。幼少期の母親との確執、夫とのこと、姑との関係、背景的なこと…たちまち私は彼女の人生に引き込まれた。なんとという境遇！山ほどの苦難！乗り越えてこられた山中さんの言葉は重かった。いかに刷り込み、洗脳が恐ろしいことか私は目から鱗が落ちる思いがした。



DV被害者は自信がない。しっかりして理路整然と話をするあるクライアントは夫の刷り込みにより自分は発達障害だと信じている。また「どんなにひどい目に合っても夫のことは心底嫌いなれない」という被害者もいる。

そして子供への面前DV、母親がいかに駄目な人間か罵倒する父親、しかし、その子供が第三者の前で母親の悪口を言おうものなら、すぐさま「ママのことをそんな風に言うてはいけない」と被害者擁護に回り、いい夫ぶる。なんとという狡猾さ！あきれる。

山中さんはDV加害者、被害者の心理、そして負のスパイラルから抜け出すための対策にまで言及して下さった。「IメッセージではなくYOUメッセージで」「挑発には乗らない」などのお話は実に説得力があった。また私自身、クライアントへの言葉かけの後でなぜか「もやっ」とすることがある。それは「あなたは悪くない」と支援者の間では常套句となっている言葉を発した時。「何を言うのかではなく、どのように伝えるかが大切」と教えていただき自分のなかの「もやっ」がどこから来ているのか分かった気がした。

これからも山中さんから学ばせていただいたことを何度も反芻しながら、支援に励みたいと思う。

山中さん、ありがとうございます。

(女性支援 M・M)

◆◇参加者のアンケートより◇◆

- ・見えづらい精神的DVの細かな感情をていねいに話して下さい、大変勉強になりました。
- ・生育歴からDV、脱するきっかけと現在についてお話いただき、ありがとうございます。DV被害者をスポットで見るべきでないということが、とてもよくわかりました。
- ・被害者が支援する側の立場になった際のとまどいやジレンマが伝わってきて、説得力があった。支援を受ける立場として、どのような制度やシステムがあればよかったと思うか聴いてみたい。
- ・自分自身の支援の在り方を客観的に見る機会になりました。
- ・DV被害を受けて傷ついているのに、支援をする立場の人達がさらに追い込むようなことをしている現状に憤りを感じます。

